学校だより
ゆめは大きく
尾張旭市西の野町5丁目1番地 https://www.owariasahi.ed.jp/asahi-e/

尾張旭市立
旭小学校
第12号
令和8年
2月25日
TEL 0561-53-2035

「原っぱのような学校」で育んだ力を、次なるステップへ

立春を過ぎ、暦の上では春を迎えました。今年度も残すところあと1ヶ月余りとなり、各学年のまとめの時期に入っています。4月の進級・入学当初、不安そうな表情を見せていた子どもたちも、今では「自分たちの手で学校を楽しくしよう」という主体的な姿を随所で見せてくれるようになりました。

1年生を招いて「おもちゃフェスティバル」を開く2年生の姿

本校は**「原っぱのような学校」**でありたいと思っています。これは、あらかじめ楽しみが用意された「遊園地」のような場所ではなく、何もないところで仲間と知恵を出し合い、自分たちで「わくわくする学び」を創り出す学校です。子どもたちはこの「原っぱ」で、自ら考え、判断し、行動する「自立心」を磨いてきました。失敗を恐れずに試行錯誤を繰り返すその姿は、まさに未来を切り拓く主人公そのものです。そして、その姿を残りの期間で加速させたいです。そこで、次の2点を考えてみてください。

1.「以前の自分」と比べてみましょう

この1年間を振り返る際、ぜひ大切にしていただきたいのは、「他人と比べるのではなく、以前の自分と比べる」という視点です。「漢字が以前よりたくさん書けるようになった。」や「友達の困っている姿に気づけるようになった。」など、一つ一つの歩みこそが、本校が意識している「自己肯定感」、すなわち「ありのままの自分を大切な存在だと感じられる心」の土台となります。ご家庭でも、お子さんがこの1年で「できるようになったこと」を一緒に数え、その努力や過程を具体的に認める**「行動承認」の言葉**をかけてあげてください。

2.「まだ、できる」という1か月

「終わり良ければすべて良し」という言葉がありますが、残りの1か月は、単なる片付けの時間ではありません。「まだできていないこと」や「もう少し頑張りたかったこと」に挑戦する時間は、まだ十分にあります。たとえ今から始めて結果が出なかったとしても、**「まずやってみる」という挑戦**そのものが、何もしないことよりもはるかに価値があり、人を成長させます。「失敗は最高の教材」です。もしお子さんが何かにつまずいていても、大人が先回りして「転ばぬ先の杖」を出すのではなく、自力で乗り越えるのを少し離れたところから見守り、応援してあげてください。

3月の修了式・卒業式まで、職員一同、子どもたちが「自分なりの納得解」を見つけられるよう、全力で伴走してまいります。この1年間の「苦労」が、子どもたちの人生を豊かにする「栄華の礎」となることを信じて、最後の一歩を共に踏み出していきましょう。

校長　岩下　徹